

自転車利用実態定点調査報告

平成29年2月

(一財)日本自転車普及協会

調査目的 自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の再考資料としていただくことを目的に行う。

調査日時 平成 29 年 1 月 25 日
[午前]8:00~8:50

調査場所 ・ 都立〇〇高校(共学)
概要 ・ 調査対象(高校生の自転車通学実態)

調査事項 走行空間調査(車道、歩道)と危険走行調査

自転車利用実態定点調査票

時間	走行空間			車種	乗次	危険走行行為					
	歩道	車道	歩道			車道	歩道	車道	歩道	車道	
1											
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											
19											
20											
21											
22											
23											
24											
25											

調査日時:	平成 29 年 1 月 25 日
天気:	晴
調査時間:	8:00~8:50

<調査票>

[コメント]

◎走行空間においては、車道左側走行率は、23%であり、車道中央走行率は、32%・路側帯走行率は、28%・車道右側走行率は、9%・歩道走行率は、8%の結果であった。

◎危険運転行為は、車道中央走行(164件)・並列運転(55件)・車道右側走行(48件)・片手運転(30件)・カバン背負い(3件)の順となっている。

【総合】

今回の調査は、引き続き、高校生の自転車通学の実態を調査したものであり、一般の人と比較して高校生が自転車のルール・マナーを遵守して利用しているかの判断基準となりうるものである。

同校の生徒においては、車道左側走行率が、2割強であるが、車道中央走行が3割であるため、この点は、是正の必要性がある。

なお、危険運転行為の中では、車道中央走行が、全体(300件)の約55%(164件)/並列運転が18%(55件)を占めており、両者だけで7割強を占有していた。

事故を招きやすいため、止めるべき行為である。

また、カバン背負いの生徒は、校門通過左折(右折)時に、転倒する危険性が高まるので、極力避けるか、一時的に自転車から下車する等の行動が必須である。

なお、校門直前での左右や後方確認をしている生徒は、極一部であった。

因みに、同校での自転車通学の割合は、全校生徒(総数680人)の8割程度である。

校外に、自転車駐輪場が整備(総収容台数600台)されていた。

なお、自転車駐輪場は、学年毎に区分けされていた。

同校の登校時間(8時30分)直前5分前には、多数の生徒が校門を目指す状況となっていた。

さらに、登校時間を過ぎても一部の生徒が、自転車通学をしていた。

同校での自転車通学の条件は、特になく、車種制限についても、特に行われておらず、スポーツ車や小径車等で通学している生徒もいた。

因みに、同校では、交通安全啓発の一環として、年に1回、全校生徒を対象に交通安全教室(スタントマンによる実演を含む)を実施している。



自転車駐輪場(全景)



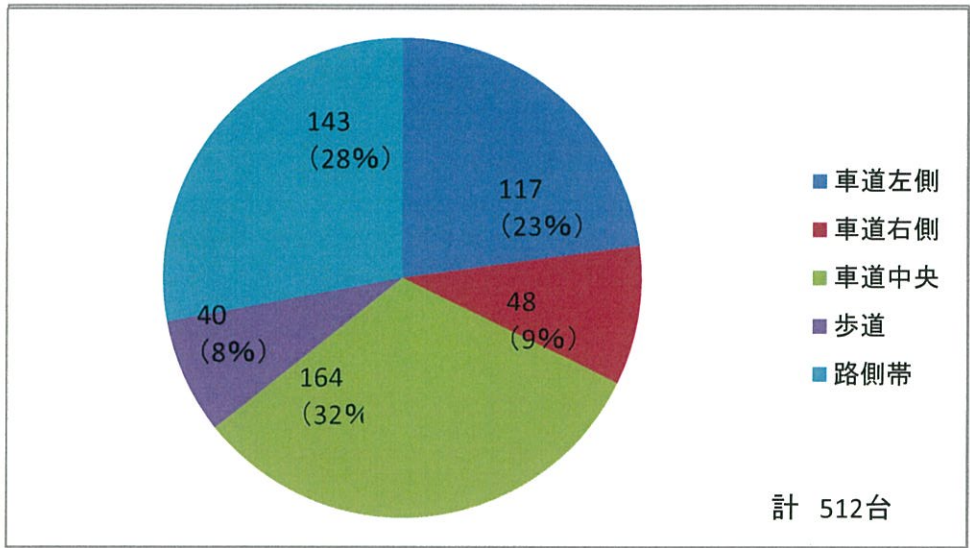
自転車駐輪場(1学年用)



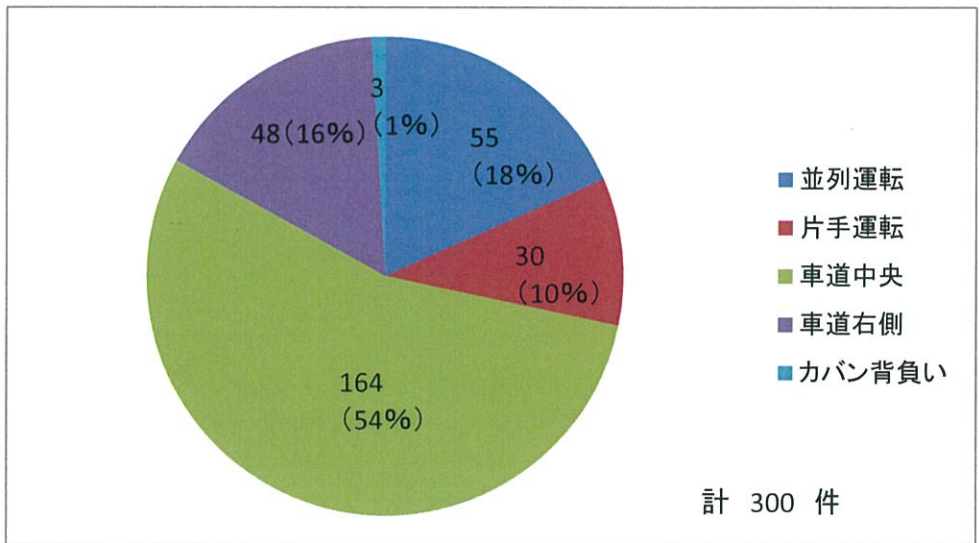
自転車駐輪場(2学年用)



自転車駐輪場(3学年用)



走行空間



危険運転行為